令和6年度秋田県バリアフリー社会形成審議会 議事録（要旨）

1 日 時

令和7年1月23日（木） 14時30分から16時まで

2 場 所

秋田県庁 正庁

3 出席者

・委員（50音順、敬称略）

浅野 雅彦 秋田県商工会議所連合会 事務局長
小野地 紀子 一般社団法人 秋田建築士会女性委員会 委員
門脇 隆幸 秋田県中央交通株式会社 営業部次長
木谷 信雄 公募委員
小森 一昭 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会秋田県支部 支部長
佐藤 哲 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会 事務局次長兼総務企画部長
下河 良 株式会社秋田温泉さとみ 代表取締役社長
菅原 香織 特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク 理事長
須田 眞史 秋田県立大学 システム科学技術学部建築環境システム学科 教授
星野 昇平 特定非営利活動法人 セカンドライフステージりんどう 理事長
八木澤 徹 秋田市立下新城小学校 校長
山下 浩司 秋田市都市整備部 部長

※14名中12名出席

（参考）欠席の委員（50音順、敬称略）

小野崎 一哉 公益財団法人 秋田県老人クラブ連合会 副会長
工藤 康憲 高尾ハイヤー株式会社 代表取締役社長

・健康福祉部

健康福祉部次長

・県庁各課

広報広聴課、誘客推進課、交通政策課、地域・家庭福祉課、長寿社会課、県民生活課、
雇用労働政策課、建築政策課、建築住宅課、教育庁（総務課施設整備室、幼保推進課、

特別支援教育課)、警察本部(警務課、会計課、生活安全企画課、交通企画課、交通規制課)

・事務局

障害福祉課長、調整・障害福祉チーム員

4 開会

- ・委員の互選により、須田眞史委員を審議会会長に任命した。
- ・議事に先立ち、須田会長より、佐藤委員を職務代理者に指名した。

5 議事 (●委員の意見及び質疑等、○事務局及び県庁各課からの回答等)

【議事1 令和6年度バリアフリー関連事業について ①数値目標の実勢値について】

(主な質疑応答)

● 菅原委員

各年度別の目標数値に対する実績ということで達成率を出しているが、年度別の目標数値というものは何を根拠にこの数値を設定しているのか。

○ 事務局

今回の計画の改訂時に各課で目標値を設定しており、一律に設定する達成率の指定は行っていない。過去の推移や目標達成の実現度等を今後は考慮しながら、次回の計画改訂の際に対応していきたいと考えている。

● 菅原委員

それぞれの施策の担当課の方に伺いたかったところではあるが、予算配分の関係であるとか、実情がどのように推移してきているのかというところがわかる資料を後でいただければと思う。

○ 事務局

来年度に計画改訂を予定しているが、資料の提示が次期計画という意味であれば、次期計画の改訂の際には資料を併せて審議会にご提示したいと考えている。

● 星野委員

障害者雇用促進のところで達成率113.6%となっているが、ご存じのとおり令和6年4月1日に障害者差別解消法が改正されて合理的配慮の提供が義務化されている。

県として周知を図るために何か行っているのか。

○ 事務局

障害者差別解消法が令和6年4月1日に改正になり、事業者の合理的配慮が新たに義務化された。事業者から相談があった際には「つなぐ窓口」を国の方で設置しており、その窓口を案内するようチラシを配付して、事業者と国と県併せて協力する形をとっている。

● 小森委員

バリアフリーの達成率は80何%と謳っている。県有施設といえば本庁も含まれていると思うが、本庁の1階にあるトイレだと高齢者等には向いているが、車いすでは入りづらい、入った後は内部でのUターンもしづらいというような状況になっている。現状では改善されていないようだが、その点も含めての達成率なのか。ただ障害者用トイレがあればいいという達成率でよいのか。

○ 事務局

県有施設のバリアフリー化についての判断については、車いすの駐車場があること、スロープがあること、手すり付きの洋式便器と小便器があること、車いす用トイレがあること、階段の手すりが設置されていることの6項目をクリアしていることで判断している。

● 小森委員

本庁の1階のトイレはどういう判断で達成と謳っているのか。

○ 事務局

県庁内のバリアフリートイレについては、この数値目標については、バリアフリートイレが設置されているかどうかでの数値の積み上げとなっており、委員がおっしゃるような車いすの回転等の環境の整備の部分については加味されていない数値である。ただ現実的には、そのような快適さも必要であると思われるので、要望があれば所管する財産活用課の方に伝えて参りたいと考えております。

● 下河委員

バリアフリー適合証の交付について、達成率でいくと段々と下がってきている状況で、目標値を見ると60つつ上がっている比例的な上がり方になっているが、来年以降達成率を上げるために何か施策等考えているのか。

○ 事務局

施策までは考えていないが、市町村等に条例の基準に適合した場合は、積極的に適合証の交付申請していただけるように通知等で働きかけはしている。

ただ、施設管理者側で適合しても申請しない場合があることは、問題として認識している。

【議事1 令和6年度バリアフリー関連事業について ②概要・進捗状況について】

● 木谷委員

話は少し戻るが、先ほど小森委員から県のトイレについての意見が出たが、私も全く同じ意見で、建物自体がおそらく50～60年経ってて、建てられたときは車いすトイレもない状態で、車いすトイレは後付けで、そのときはとにかく車いすが入れる場所さえあれば程度で、今は全く違うので整備をお願いしたいと思っている。

後は駐車場の件、障害者の区画、今はパーキング・パーミットということで利用証を掲示することになっているが、ただ最近やたらと普通の人が止めているケースが多くなってきている。なぜかと考えたときに、車いすだけじゃなくて妊婦や高齢者やケガしてる人もいいですよみたいな表示があるので、元気なお年寄りが結構そこに当たり前に止めている状況になって、我々車いすがなかなか止まる場所がないという状況が多く見受けられている。駐車場にはいろいろな掲示をしてあるが、どこにも利用証が必要ですとは書いてないので、その辺を徹底した啓発活動をやっていきたいということで、例えば免許の更新のときに啓発ビデオを必ず一番先に見てもらおうとか、いろいろな対策はあると思う。本当は、罰則を設けた方が私はいいと思うが、なかなか国の方でも罰則規定には少し後ろ向きで、国土交通省の資料にもあったし、罰則まではいかないのであればせめてきちんと利用証を掲示しなければいけないということを、一般の人に周知して欲しいと思う。

○ 事務局

駐車場の利用に関してですが、県の障害者等用駐車区画制度については広報啓発として、今年度は注意喚起を行うポスターを新たに作成して、利用証が必要だということを目立つように明記しているほか、テレビCMを作成しており、年度末には放送することとしている。また、魁新聞にも広告を掲載する予定としており、委員御指摘のとおり不適正利用が多く苦情が寄せられている状況であるため、周知や啓発活動に力を入れていくこととしている。

● 小森委員

障害者駐車場の適正利用ということで木谷委員の方からもお話しがあったとおり、私も20年くらい前から私の所属団体を通して駐車場の不正利用の防止ということで、駐車場の青色塗装を全国展開させていただいてるところであるが、それでもなおかつ県条例の駐車証なしに止めている方々が多く見受けられている。まだ青色塗装を実施されていないところが公共施設の中にも多々あるので、ぜひ青色塗装を、これは視覚に訴えて防止しようという考え方から私は提唱しているので、今全国展開もされているし、県においても全県の駐車場、障害者用と指定されている箇所は全面青色塗装をするということで進めていただきたいと思います。

また、駐車証の発行についても、たまたま全然車いすでない方、高齢者の方が受給されて利用している件もあるので、確認して発行するように指導していただきたいと思います。

○ 事務局

小森委員からお話あった駐車場の青色塗装の活動については感謝申し上げます。

県としても、駐車場を青色で塗装することによって、わかりやすくするという考えはごもっともだと思うので、県としても検討して参りたいと考えている。

2点目の申請の際の確認については、現状車いすを持っているかどうかの確認作業は行っておらず、その部分についてどのような確認方法があるか、必要性も含めて検討して参りたいと考えている。

● 小森委員

私も当初の条例の時に参加させていただいたので、発行するときに免許証とか身体障害者手帳を提示することが必要なのは知っているが、その確認がされていないような、どこの市町村かそれはわからないが、たまに全然関係ない、障害者は障害者なのだろうが、車いすでない方がブルーの許可証をもらって掲示しているというのが多々見受けられた。私も3~4回見たことがあるが、その点も各市町村の窓口で指導して交付するようにしていただければと思う。

○ 事務局

駐車場の申請の際には、証拠書類となる障害者手帳の写し等は必須となっているので、添付のないものに発行するという事はないと考えられるが、実際に車いすがあるかどうかの確認手段は現状ではないので、その部分について問題として捉えて参りたいと考えている。

● 星野委員

23番36番51番、防犯に関すること、あと高齢者世帯等の除排雪活動のところに課題として高齢化によって担い手がないという課題が出ているが、非常に気になっている。

これは今すぐ解決できる問題ではないが、令和7年度も同内容を実施するというところで、これをそのまま実施するとまた同じ課題になってしまうような気がしてならない。若い世代現役世代の参加促進をどうするかということ、これは非常に大変な問題だが、いわゆる今大変流行っている闇バイト、防犯に関しては闇バイトの方々の犯罪、雪に関しても高齢者世帯等だけではなくて、例えば通学路の除雪とかに関して一般の方の参加が非常にこれから必要になってくると思う。令和7年度にも同内容を実施することだが、また課題が同じ結果にならないように取り組んでいただければと思う。

○ 県民生活課

高齢社会が進んでいるため、地域における活動の担い手は雪対策においても防犯対策においても非常に不足している現状は認識している。資料には、令和7年度も同様の事業を実施予定と書いてはいるが、例えば、雪対策においては、新たな団体の立ち上げにも限界がそろそろ生じているところでもあるので、それに加えて今活動している団体が継続して活動していけるように工夫をしている。金銭的な支援は予算等の制約もあって難しいが、地域において活動しているNPO法人等と連携しながら、使用可能な制度の助言などを行っているところである。一足飛びに成果等の期待はできないが、以上のように工夫しながら事業を進めていることは御理解いただきたいと思う。

● 八木澤委員

小学校長会を代表して来ているので、それに関連してお話しさせていただきたい。

質問というか提言となるが、2番の福祉教育推進事業の方で「みんな大好き一福祉のこころー」を配布していただいて、その活用を今小学校の現場で行っているところだが、昨今、若い先生たちの勉強が大変多くなっていて、指導方法等もなかなかうまくいかない部分がある。そういった中で子どもたちにより活用してもらうためには、冊子で配っているが、むしろ電子データで配布して、その中を少し工夫して、あるいは若い先生たちのためにどういった授業でどのように使うか指導案を作成したり、あるいは子どもがすぐに使えるようなワークシートも電子データで送ることによって、それにあった数だけ学校で印刷、あるいはちょっと加工するとかもできるので、そういった立場であれば予算の削減にもなるし、先生方にとっても活用していけるのではないかと思います。

われる。それから昨今でていたような、いわゆるトイレの問題だとか駐車場の問題なども、毎年少しづつ手を加えていくことによって、子どもたちにとっても「あ、今こういうことが問題になっているのかな」とか、そういったことがリアルに感じられるものになるのではないかなと思ひ、提言させていただいた。

● 須田会長

子どもたちがそういうことに着眼するというのはとても重要だと私も思う。

【議事2 令和6年度秋田県バリアフリー推進賞について】

(質問・意見なし)

【議事3 その他】

● 小森委員

今日タクシー協会の方がいればぜひ伺いたかったのだが、バスの方も障害者の車いすの方もなかなか乗りたいときに乗れない、事前に連絡して予約しなければならないという不便さがあるわけだが、もう少し改善していただきたいなというのと、タクシーの方なんですが、福祉タクシーということで車いすの方、私は障害者団体の方も関わっていて、いろいろな方々から意見あるいは要望をいただいているのだが、予約して電話入れても運転手がいなくて、運転手が休みだとかとあって、それぞれのタクシー会社では福祉タクシーを用意しているとマスコミ等で宣伝はされているが、いざ利用したい時にそういう状況にあるので、いつでも当事者が利用したい時に利用できるような指導をしていただければと思っている。

● 木谷委員

今小森委員から言われたこと、私もじようなこと考えていて、例えばタクシーで以前に、今ユニバーサルデザインタクシーっていうのが大分取り入れられていて、都市部で私は乗ったことあるが、横からスロープを出して乗り込むという形の、スロープの設置までは手間取るけれども、なんとか乗れるという形で、段々普及はしているのだが、以前タクシーを予約しようとしたら「今車いすでは乗せてません」みたいなこと言われたので、では普通の福祉タクシーでお願いしますと言ったら「一人ではだめです」と言われて、結局は乗れるようにはなったのだが、いろいろな不便さがあるので、その辺を今日はハイヤー協会の人いらっしやらないので、差別解消法の趣旨からいくと断っては

いけない、正当な理由があればよいが、単純に障害があるからとか、あるいは一人じゃだめとかというのは法律の趣旨に違反するので、それは直していただきたいと思う。

あとバスについては、今中央交通の方でネットで運行状況が見られるサービスが始まっているが、もしその中にそのバスがノンステップなのかがわかるマークが入れられるのであれば入れていただければ、今度来るバスが車いす乗れるってことがわかるので、どういうシステムで運行状況をネットで公開しているのかわからないが、可能であればそうしたサービスもしてもらおうと、このバス車いす乗れないみたいだから次のバスで行こうかということで利用も増えると思うので、ぜひお願いしたい。

● 門脇委員（秋田中央交通営業部次長）

今委員の方からお話のあった、今年10月からバスの運行がわかるシステムを取り入れて、今お話のとおり車いすのマーク等で車いすの利用者が利用しやすいようにということだが、モバステーションという運行がわかるシステムは標準では今の時点では難しいので、私の方で一端持ち帰らせていただいて、システム開発の会社の方にこういうお話が来るということで、実現がどうなるかお約束はできないが、なるべく車いすの利用者の方に利用しやすいように検討させていただきたい。

● 須田会長

素朴な疑問なのだが、ノンステップバスは時刻表でこのバスっていうのは決まっていけないのか。決まっていたら時刻表に印を付けるだけでも随分違うと思うのだが。

● 門脇委員（秋田中央交通営業部次長）

当社の場合だと、車両を固定してしまうといろいろと路線によっては運行距離が違うので、車両によって距離が伸びたり偏ってしまうことになるので、営業所の方で全部の車両の走行距離を合わせるように調整して運行している。走行距離が偏ってしまうと長く走った分だけ車両が傷むこととなるので、だいたい年式も合わせたり、走行距離も平均的にしているので、そこは難しいところになる。

6 閉会